

2020年春闘 働くみんなの要求アンケート最終 結果

2020年3月9日

日本医労連調査政策局

■集約数

アンケート配布数は未記入も多くありましたが、合計配布数は、72965枚で集約数は54876（昨年51884）人分でした。また、単純集計結果のみが送られてきたため集計に反映できなかったものが1181人分あり、あわせると56057人分を集約しました。（以下昨年分）

■性別

男性 22.2%、女性 77.4%、NAO.4%

■年齢

20代～50代までほぼ20%台であり、年齢分布について例年通り平準化しています。

■雇用

正職員 81.2%、フルタイム無期 1.6%、フルタイム有期 2.0%、パート・臨時 12.8%、派遣 0.3%、個人請負・業務委託 0.1%、継続雇用 1.4%、その他 0.4%と圧倒的に正職員が占め、非正規職員までの広がりはありません。

■組合加入

「加入している」82.1%、労組未加入者は13.6%となっています。「組合がない」と答えた人、組合があるかどうか「わからない」人を合わせると3.8%いました。

■職種

「看護職」が44.5%と半数を占め、「医療技術職」19.1%、「介護職」12.5%、「事務職」11.8%
「技能・労務職（助手含む）」4.4%で、「保育士」は0.7%、「医師」0.6%でした。

■設問1（1）生活実感

「かなり苦しい」14.0%（14.2）、「やや苦しい」44.0%（42.8）とあわせて58.0%（57.0）が苦しいと答えており、昨年より高くなっています。

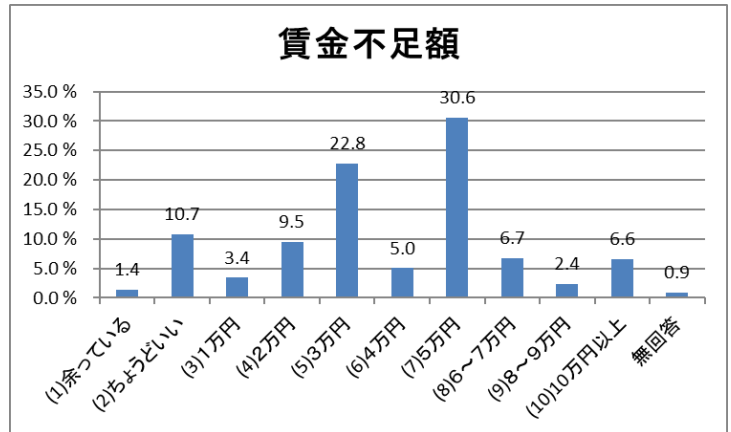
■設問1(2) 収入(年間)の前年比較

「増えた」が22.6%(21.9)、「変わらない」55.7%(56.3)となっています。「減った」20.9%(20.7)でした。また「減った」と回答した中で、50代から2割を超え、定年再雇用など60歳以上で5割となっています。

■設問1(3) 生活実感からの不足額

「5万円」30.6%(30.4)と最高値で、次いで「3万円」22.8%(22.8)となっており、例年通りの傾向です。

加重平均40,285.9円(40,196.8円)で昨年を89円うわまわりました。



■設問1(4) 生活実感から一番の負担感

全体平均でみると第1位が「税・社会保険料」22.8%(19.6)、第2位「住居費」22.3%(23.3)で1位と2位が入れ替わっています。これは2019年10月からの消費税引き上げが影響していると思われる。第3位「学費(子供の教育費・研修費・教材費・保育料など)」18.0%(18.7)、第4位「食費」14.3%(14.7)と例年通りの順位となっています。

年齢別にみると「税・社会保険料」については、ほぼすべての年代で2割台ですが、「学費」については40代が3割を超え、50代も2割台と高くなっている点を踏まえると、子どもの教育費がかかる世代で高値になっていることがうかがえます。

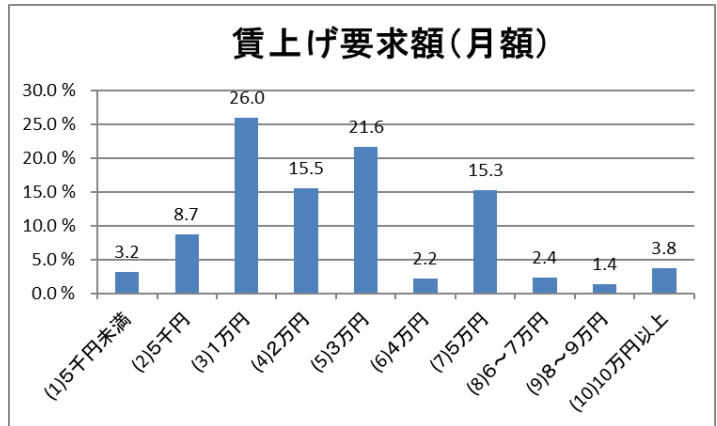
また「奨学金の返済」が20代では第3位(4位)で、全世代の中で比較すると第1位になっており、若年層を苦しめている状況がみてとれます。

	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
(1)食費	12%	14%	14%	13%	13%	23%
(2)住居費	24%	25%	28%	19%	19%	16%
(3)水道・光熱費	2%	4%	3%	4%	5%	9%
(4)医療・介護費	4%	2%	3%	3%	7%	13%
(5)交通費(自動車の維持費も含む)	13%	11%	7%	5%	4%	5%
(6)通信費	2%	1%	1%	2%	2%	2%
(7)学費(子供の教育費・研修・教材費・保育料など)	15%	3%	15%	33%	23%	3%
(8)奨学金の返済	6%	14%	4%	1%	2%	1%
(9)税・社会保険料	18%	24%	24%	20%	24%	26%

■設問1 (5) 月額賃金要求

賃上げ要求額としては、「1万円」26.0% (25.5) と一番高く、次いで「3万円」21.6% (21.8)、「2万円」15.5% (15.8)、「5万円」15.3% (15.6) の順となっています。

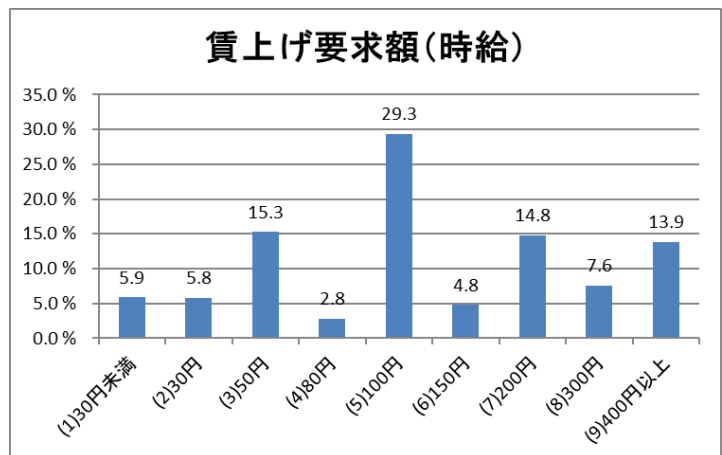
加重平均で28,540.6円 (28,957円) となり、昨年より417円下がっています。「5万円」を要求する声は高まっており、5年前の16春闘と比較して2.0%も引き上げられています。



■設問1 (7) 時間額賃金要求

「100円」29.3% (29.0)、「50円」15.3% (15.1)、「200円」14.8% (14.5)、「400円以上」13.9% (14.5) に集中しています。

加重平均で165.53円 (167.8円) となり、前年より2円引き下がっています。



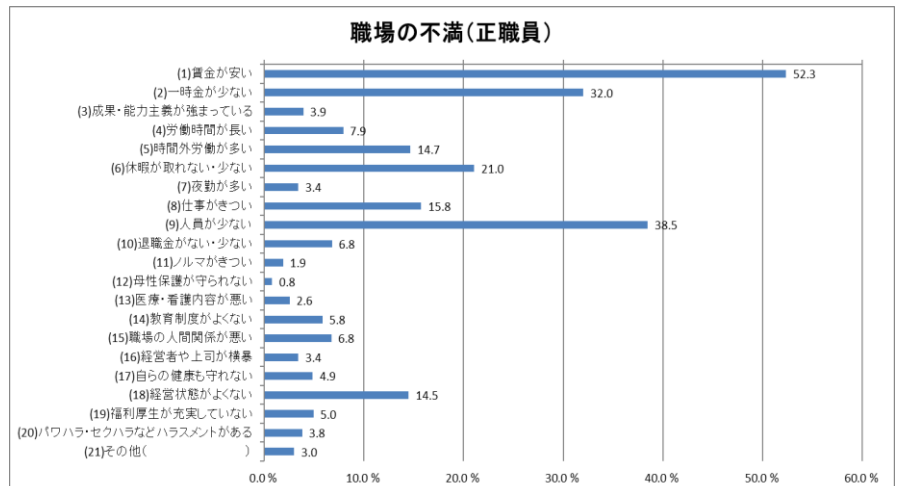
■設問2 (1) 疲れ具合

「とても疲れる」45.2% (45.6)、「やや疲れる」48.0% (48.0) あわせて、93.2% (93.6) が「疲れる」と回答しています。

■設問3 (1・2) 職場の不満(正職員)

正規職員の職場の不満では「賃金が安い」が不動のトップで、52.3%と5割を超えています。特に20代で65.0%、30代・10代で50.0%と仕事を求められる若い世代で非常に高くなっています。

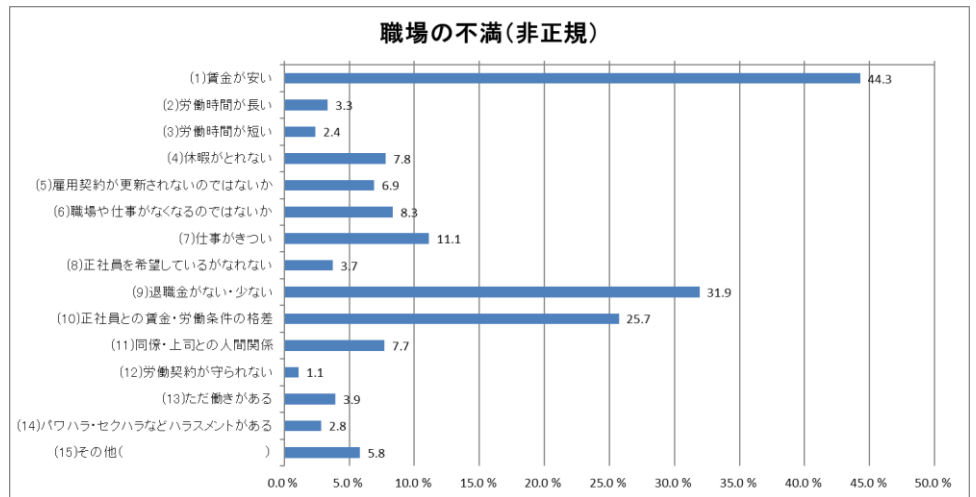
また、「人員が少ない」38.5%、「一時金が少ない」32.0%と続き、ここについては全世代にわたって共通の不満となっています。



	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
(1)賃金が安い	51%	65%	50%	36%	30%	9%
(2)一時金が少ない	21%	25%	29%	27%	28%	7%
(3)成果・能力主義が強まっている	4%	2%	3%	4%	4%	1%
(4)労働時間が長い	8%	8%	7%	7%	6%	2%
(5)時間外労働が多い	9%	19%	12%	11%	9%	1%
(6)休暇が取れない・少ない	18%	17%	18%	19%	19%	4%
(7)夜勤が多い	1%	3%	3%	3%	3%	1%
(8)仕事がつつい	18%	17%	13%	12%	11%	2%
(9)人員が少ない	25%	37%	34%	32%	28%	7%
(10)退職金がない・少ない	4%	5%	5%	6%	8%	3%
(11)ノルマがつつい	4%	1%	2%	2%	2%	0%
(12)母性保護が守られない	1%	1%	1%	1%	0%	0%
(13)医療・看護内容が悪い	2%	2%	3%	2%	2%	0%
(14)教育制度がよくない	4%	5%	7%	5%	3%	0%
(15)職場の人間関係が悪い	4%	6%	6%	6%	6%	1%
(16)経営者や上司が横暴	2%	2%	3%	4%	2%	1%
(17)自らの健康も守れない	2%	4%	4%	4%	5%	1%
(18)経営状態がよくない	9%	10%	14%	13%	11%	3%
(19)福利厚生が充実していない	4%	5%	4%	4%	4%	1%
(20)その他()	4%	2%	3%	4%	4%	1%

職場の不満 (パート)

パート職員の不満では、「賃金安い」44.3% (44.7) が正職員同様にトップとなり、それを引き上げているのが再雇用者などの60歳以上の職員で59%となっています。再雇用になって極端に賃金が減ったことに対する不満が大きいことがうかがえます。また、20代で50%、30



代・40代・50代については、40%台と全世代において、どの不満より高くなっています。

次いで「退職金が少ない(ない)」31.9%、「正社員との格差」25.7%の順になります。50代までで比較すると、年齢が高くなるにつれ不満の数字が上がっています。一定の経験を積み仕事の内容もほぼ正職員と同じような状況の中で、賃金・労働条件の違いに不満を感じていることがうかがえます。

	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
(1)賃金が安い	26%	50%	48%	44%	42%	59%
(2)労働時間が長い	4%	5%	3%	3%	3%	5%
(3)労働時間が短い	4%	3%	2%	2%	3%	3%
(4)休暇がとれない	9%	9%	8%	8%	8%	10%
(5)雇用契約が更新されないのではないかと	0%	7%	7%	7%	7%	9%
(6)職場や仕事なくなるのではないかと	0%	8%	9%	9%	9%	9%
(7)仕事がつつい	0%	10%	11%	12%	13%	12%
(8)正社員を希望しているがなれない	0%	9%	5%	5%	4%	1%
(9)退職金がない・少ない	9%	18%	30%	37%	41%	33%
(10)正社員との賃金・労働条件の格差	13%	21%	28%	27%	28%	31%
(11)同僚・上司との人間関係	9%	9%	8%	8%	8%	9%
(12)労働契約が守られない	4%	1%	1%	1%	1%	1%
(13)ただ働きがある	0%	5%	4%	4%	4%	6%
(14)その他()	0%	2%	3%	3%	3%	3%

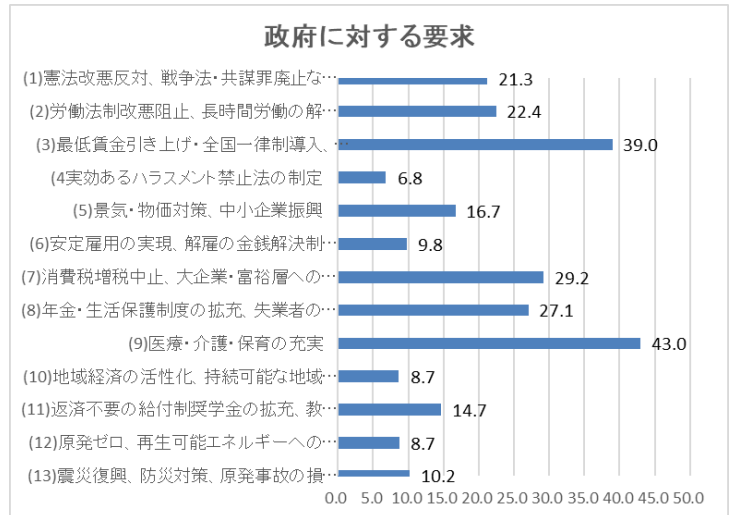
■設問4 政府への要求

第1位は「医療・介護・保育の充実」43.0% (46.9) で、次いで、「最低賃金引き上げ・地域間格差の解消」39.0% (38.4)、「消費税増税中止、大企業・富裕層への課税強化」29.2% (32.6)、「年金・生活保護制度の拡充」27.1% (26.0) と続き、昨年から順位に変動はありません。

「憲法改悪反対」など平和と民主主義の課題は第5位で21.3% (24.7) となっており、これを年代別に見ると、60歳以上は40割台と高くなっているのに比べ、10代~30代では1割台にとどまっています。平和であることが当たり前になっているのか、改めて歴史を学び、命を守る医療労働者が白衣を戦場の血で汚すことがないように、学習を重ねていく必要があります。

「最低賃金引き上げ」については、2年連続で2位となっており、昨年よりさらに0.6%引き上がっています。

20春闘では、全労連のめざす「全国一律最低賃金制度」実現の運動に結集することと併せ、看護師と介護職を対象とした特定最賃（産別最賃）の新設をめざして取り組みを大きく広げていくことが求められています。



	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
(1)憲法改悪反対、戦争法・共謀罪廃止など、平和と民主主義の擁護、核兵器廃絶辺野古新基地建設反対、米軍基地撤去	17%	14%	17%	21%	27%	42%
(2)労働法制改悪阻止、長時間労働の解消、労働安全衛生強化	27%	36%	25%	18%	15%	8%
(3)最低賃金引き上げ・全国一律制導入、地域間格差の解消、公契約法・条例制定、均等待遇の実現	46%	52%	40%	34%	32%	33%
(4)実効あるハラスメント禁止法の制定	7%	8%	7%	7%	6%	5%
(5)景気・物価対策、中小企業振興	13%	16%	19%	17%	16%	12%
(6)安定雇用の実現、解雇の金銭解決制度の阻止	7%	8%	9%	10%	11%	13%
(7)消費税増税中止、大企業・富裕層への課税強化	23%	26%	28%	31%	31%	34%
(8)年金・生活保護制度の拡充、失業者の生活保障	20%	21%	22%	26%	37%	42%
(9)医療・介護・保育の充実	35%	38%	49%	45%	41%	36%
(10)地域経済の活性化、持続可能な地域づくり	7%	7%	10%	9%	9%	6%
(11)返済不要の給付制奨学金の拡充、教育費無償化拡大、民主的な教育の実現	8%	13%	16%	19%	11%	7%
(12)原発ゼロ、再生可能エネルギーへの転換	5%	3%	6%	10%	14%	19%
(13)震災復興、防災対策、原発事故の損害賠償	6%	8%	10%	11%	12%	10%